

クイーン俱楽部だより(4)月号

第194号

2019年



有限会社工コ・ライス新潟

新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100

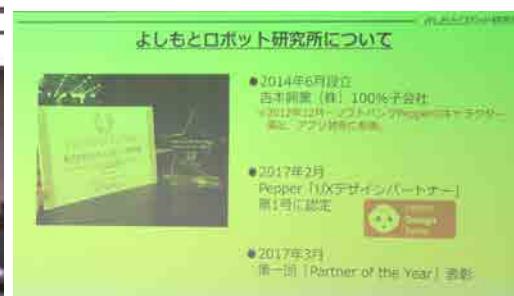
TEL 0258(66)0070 FAX 0258(66)0447

URL <http://www.eco-rice.jp/>E-mail office@eco-rice.jp

農業にドローンを使い、コスト低減と収量増加の技術を学びました！



学生によるプレゼンテーション



よしもとロボット研究所の特別講演



中村 信也(なかむら のぶや)

医学博士。東京家政大学名誉教授。まほろば東京クリニック院長。
「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者。

私にも
ドクトラ
“N”の
一言言わせて

その
48

※ドクトラ…英語で博士の意味

内閣府発表の「世界経済の潮流」による本年の世界経済の見通しが、新聞のトップに載りました。それによると、17年は世界の貿易量の成長率は前年比4.9%伸びて、18年は5.1%の伸びの予測という記事です。いつも思うのですが、経済は毎年伸び続けること自体が無理なことなのです。現世では売上げも人口も毎年伸び続けないといけないという上昇思想が常識化しています。人口爆発の真最中に、経済成長で増え続ける人口を養うという人口増加策は賢明ではありません。

自然の世界では高過ぎ・多過ぎは削いで削減するという平坦力が働きます。崖崩れは高過ぎを削り、低過ぎを是正する地球原理です。東北大震災もプレート是正現象で生じたものです。地球温暖化も氷河期と間氷期のは正の中での現象でしょう。

日常では給料は毎年上がらねばならない、会社は毎年収益を増加させねばならないという自然現象の中での一環です。会社は新しいものに挑戦し、旧たる事業の自然減を補つて維持できています。収益も給料も昨年並みでよいのであって、毎年の増益給与増ではいつかは息切れして疲労倒産することになります。

自然も会社も「現状維持は美しい」を肝に銘すべきです。世界経済では、経済成長する国もあれば、落ち込む国もあり、全体では昨年とは「プラスマイナス」が健全なのです。江戸時代は徹底した鎖国政策で、約二百年間経済成長ゼロ、人口は三千万人に保ち、歐米列強に植民地化されることなく、平和を守り通してきました。移民で増やし、経済成長を保つという無理政策より、人口減に合わせ、二十四時間営業、翌日配達のようなやり過ぎは正がこれからの課題です。

常に上昇政策の無理